地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●1. マナマコ人工種苗生産・放流事業　2. 陸上養殖試験事業

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）			**関連資料**
地域MVにおける取組の位置付け	【地域の目指す姿】 ○持続的漁業生産体制の確立 ○養殖生産拠点の形成 **【主な取り組み】** ○マナマコ人工種苗生産 **○陸上養殖事業に関わる勉強会の開催**	取組場所：様似漁港 	【取組の様子】 （ナマコ採卵作業） （陸上養殖勉強会）
現状における取組実施の背景	・マナマコ漁獲量はH2の60ｔをピークに減少傾向となりH10年以降は20～30ｔ台で推移している。 資源の更なる増大及び維持するため、H29年より漁業者が主体となり関係機関と連携しながら人工種苗生産・放流を実施 ・令和３年９月に発生した赤潮や環境変化による海水温の上昇などの影響を受けないために、陸上養殖を実施したいと考え、関係機関を交えての勉強会を開催した。		
取組により期待する効果	・持続的な生産数の確保 ・海洋環境に影響されない魚類の生産、種苗の生産		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	**【取組内容】** ・マナマコ人工種苗生産～放流 ・陸上での中間育成 ・ウニ種苗センターでの中間育成（放流用） **【取組方法】** ・浦河町のウニ種苗センター内で採卵～受精～幼生飼育を行う ・放流は様似１箇所（様似）、浦河３箇所（荻伏・東栄・浦河） **【取組手順】** ・7月3日 親ナマコ採取、採卵～人工授精、受精卵収容、幼生飼育 ・7月18日 陸上中間育成開始 ・11月13日 陸上中間育成分の計数調査 ・11月14日 陸上中間育成分の沖出し 実施体制：日高中央漁協、様似町、浦河町		
（3）効果項目に対する評価（Check）			
効果目標の達成度評価	・R7放流数：3.2万粒(採卵数が激減したことにより、中間育成したもののみを放流)		
反省点			
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	・生産数増加による作業工程の見直し、効率化　・マナマコの採卵方法、放流数の調整		
取組の実施に必要なもの	・適切な放流サイズの見極めや生息適地の検証について引き続き検証が必要　・各地での取組方法等の情報収集		